

◎『岐蕨路記』[正徳3年(1713)]

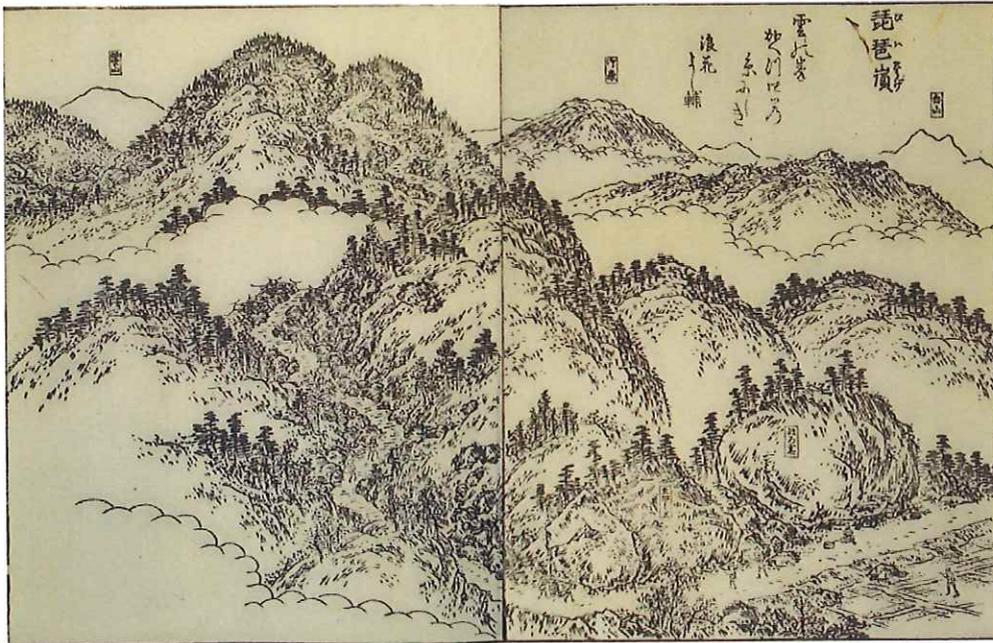
江戸時代の儒学者・貝原益軒が旅に出て感じたことを記した旅日記です。

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数
○大湫宿…34～35軒ほど ○細久手宿…50軒ほど
地形・景観的な特徴
① 大湫と細久手の間に琵琶坂（琵琶峠）がある。この坂から艮（北東）に木曾の御嶽が見える。北に加賀の白山が飛騨の山あいからよく見える。西に伊吹山が見える。
その他
（特に記載なし）

◎『木曾路名所図会』[享和2年(1713)～文化2年(1805)]

文：秋山離島、画：法橋中和が、中山道とその沿線の古事・名所などを記した書物です。



[琵琶峠]

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数
○大湫宿…（記載なし） ○細久手宿…（記載なし）
地形・景観的な特徴
① 琵琶嶺（琵琶峠）は細久手の東方、一理余りにある。道は険しく岩石が多い。丑寅（北東）に木曾の御嶽が見える。北に加賀の白山が飛騨の山あいからよく見える。西に伊吹山が見える。琵琶峠の下に母衣岩と岩烏帽子岩がある。
その他
（特に記載なし）

琵琶峠地区



出典
木曾路名所図会 第二卷 [瑞浪市民図書館所蔵]

琵琶嶺

雲谷

如川

系

浪花

輔

山

谷

川

系

◎『壬戌紀行』[享和2年(1802)]

江戸時代の役人(官僚)・大田南畝(蜀山人)が大阪に出張した帰路を中山道にとり、その際に記した旅日記です。『木曾の麻衣』とも呼ばれました。

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数

- 大湫宿…小さく、人家が少ない
- 細久手宿…小さい

地形・景観的な特徴

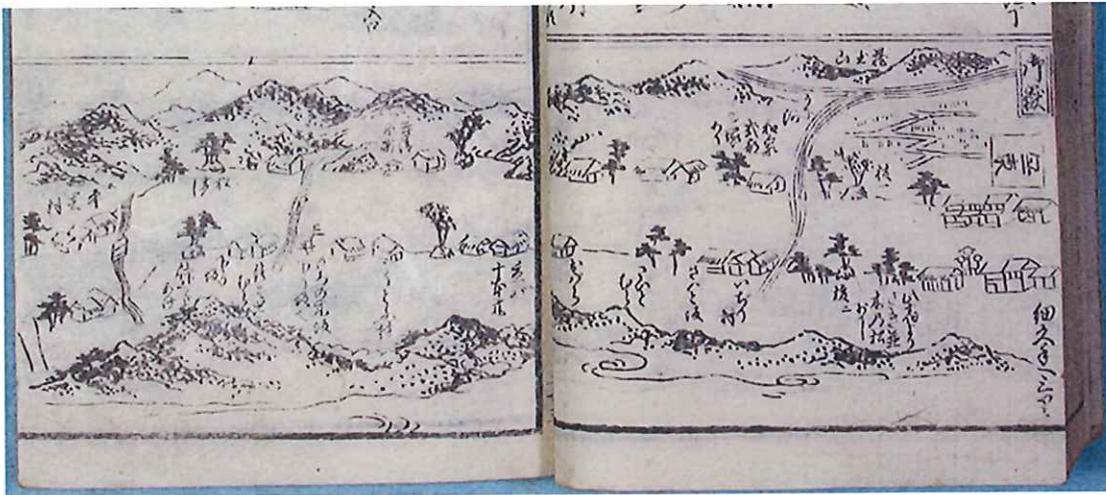
- ① 梅の木坂という坂を下ると左の岨(崖)に大石がある。土橋を渡ると平岩村に至る。
- ② 御嶽から細久手までの三里のうち、上り坂がほとんどで、下り坂は八町(約870m)程度。細久手宿に入ると左(北側)に神社があり、石坂(石段)が見える。
- ③ 細久手東方の道の左右は谷になっている。アセビ(馬酔木)が多い。サワギキョウ(沢桔梗)という花もある。
- ④ 遠くに山が連なっているのが見える。一里塚(奥之田一里塚)を過ぎると芝山(雑木の生えた山)尾根道を進む。左の方に小さい池(弁天池)があり、カキツバタ(杜若)が茂り、池の中島には弁財天の祠がある。
- ⑤ 松なみの中を進むと「一つ屋の立場」に着く。人家は2、3軒あるが、人が住んでいるのは1軒である。右(北東か)の方に笠着山(笠置山)がみえ、さらに右側には雪が積もった御嶽山が見える。
- ⑥ 琵琶峠は石が多い。山の嶺(頂上)からは多くの山が見え、伊勢湾も望めるという。頂上から東側も岩が無数にある。烏帽子岩と母衣岩という巨石は目を脅かせる。
- ⑦ 大湫宿に入ると左に大きな杉の木があり、その元に神明神社がある。
- ⑧ 大湫宿の東を十三峠というが、詳しく尋ねると二十ほどの坂があるといい、最初の坂を寺坂、次を山神坂という。しばらく進んで、三、四町降る坂をしゃれこ坂と言い、右の方に「南無観世音菩薩」と彫られた石がある。
- ⑨ 地蔵坂には右の方に大きな杉の木があり、根元に地蔵菩薩が立てられている。付近を「おつるが茶屋坂」と呼ぶのは、近くにおつるが茶屋があったためという。
- ⑩ 芝山(雑木の生えた山)の松なみを上ると石が所々にあり、赤土が多い。曾根松坂という。坂を下ると左の石から水が流れていおり「順礼水」という。一里塚を過ぎて、櫛ノ木坂を下り、炭焼きの五郎坂を下ると炭焼立場がある。左に権現山が見える。
- ⑪ 鞍骨坂を少し下り、権現坂を上ると人家が3、4軒あり「多くご(大久後)」という。新道坂を下り、茶屋の原という平地に着く。向い茶屋という急坂を下り、茶屋坂という上り坂がある。

その他

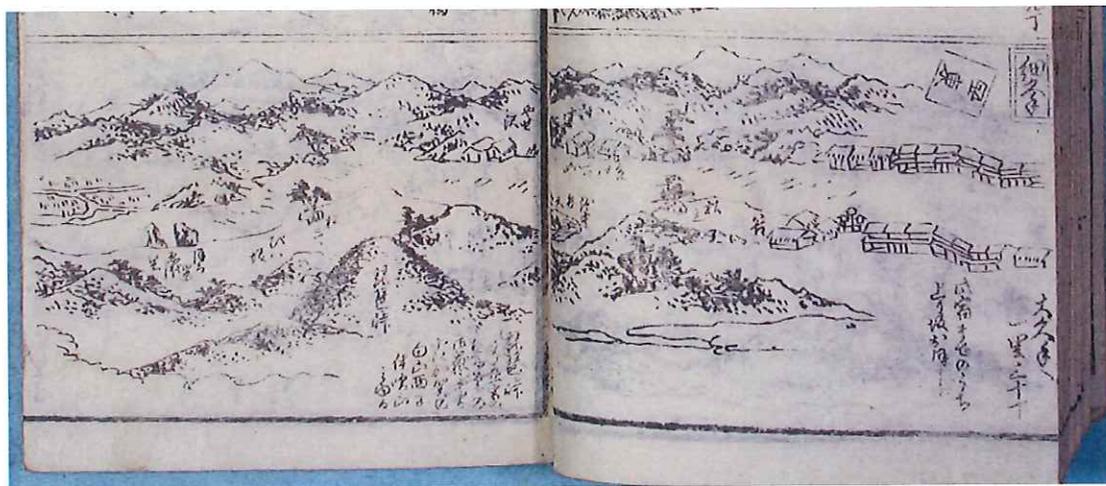
- ① 順礼水(⑩に記載)は、普段はさほど水は出ないが、8月1日には必ず多くの水が出るという。これは、むかし巡礼者がこの場所で体調を崩したが、この水を飲んで命が助かったことから、今もこのようなことがあるという。

◎『東海木曾両道中懐宝図鑑』[天保13年(1842)]

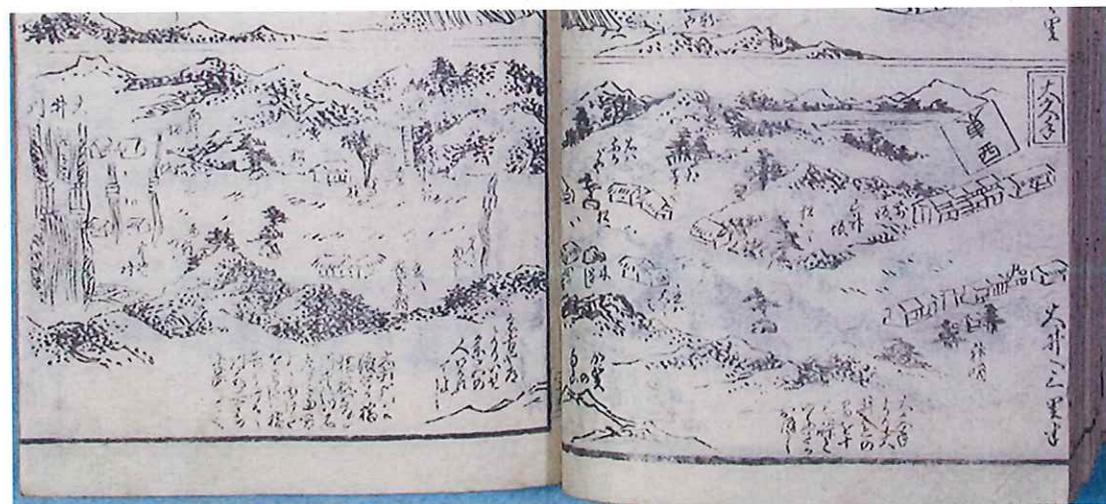
東海道(上段)、中山道(下段)の道程を簡易な図と解説文でまとめた携帯用の道中記ですが、図は左側を東、右側を西として描いているため注意が必要です。



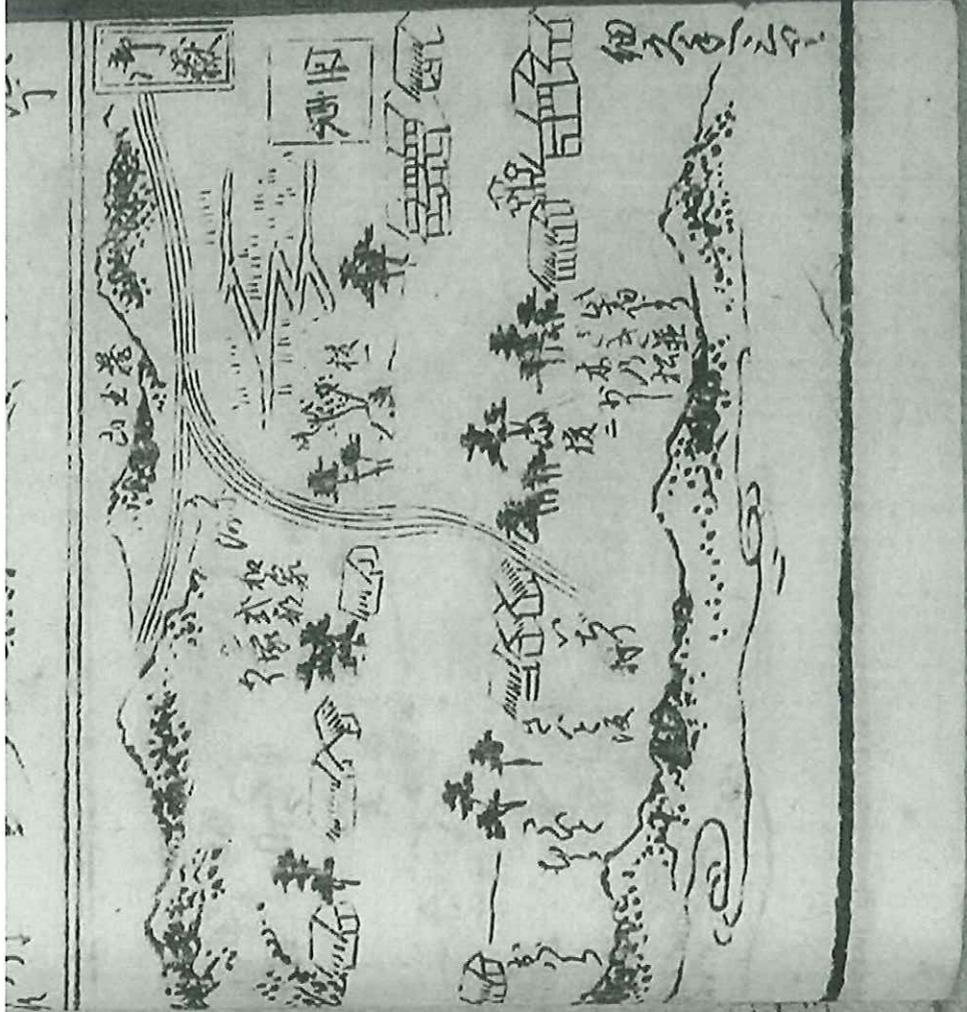
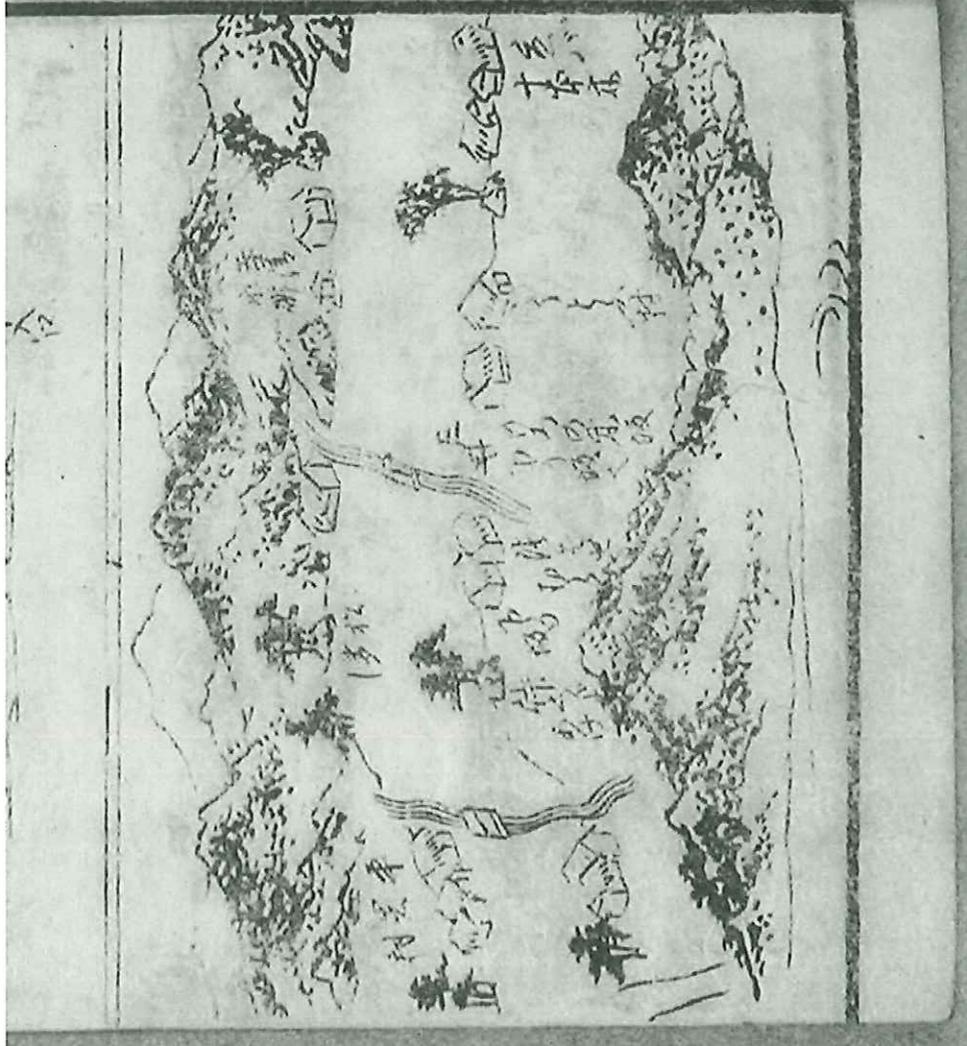
[細久手宿～御嶽宿]

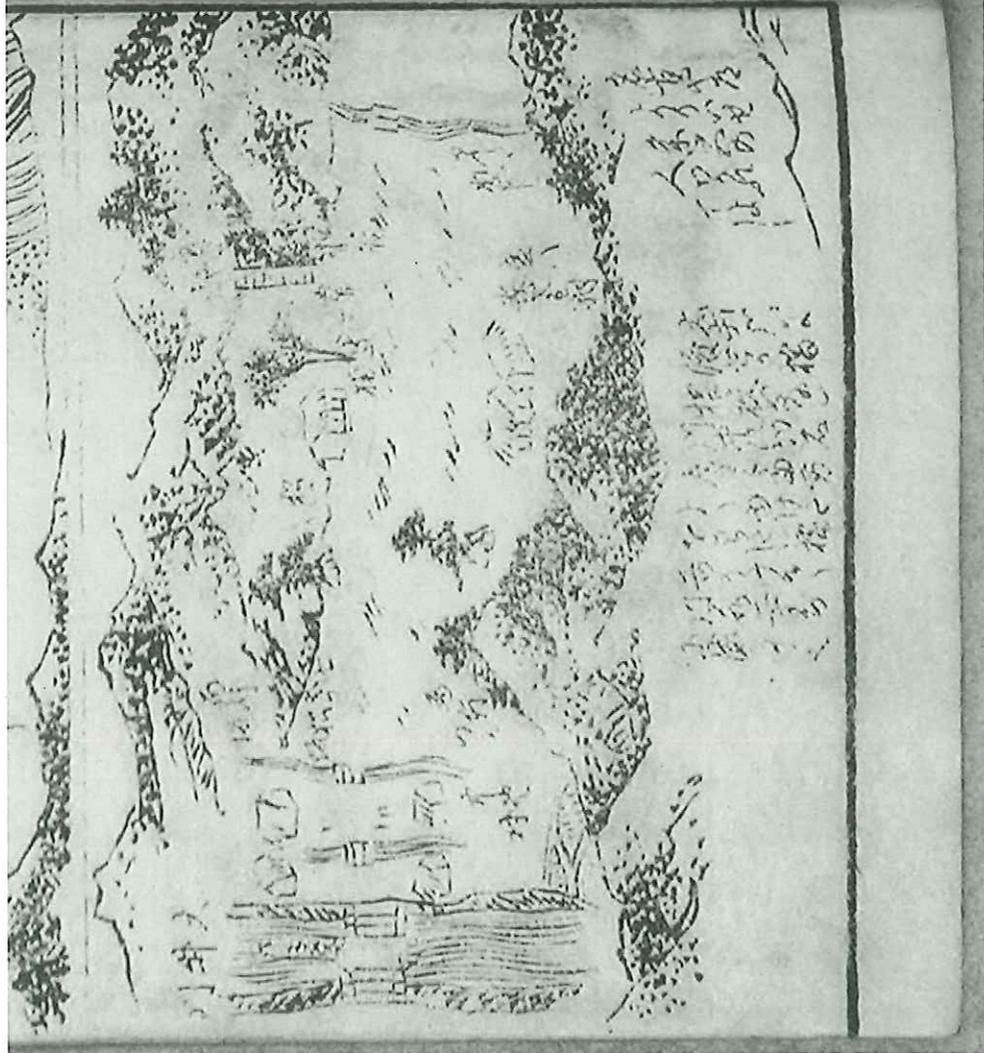


[大湫宿～細久手]



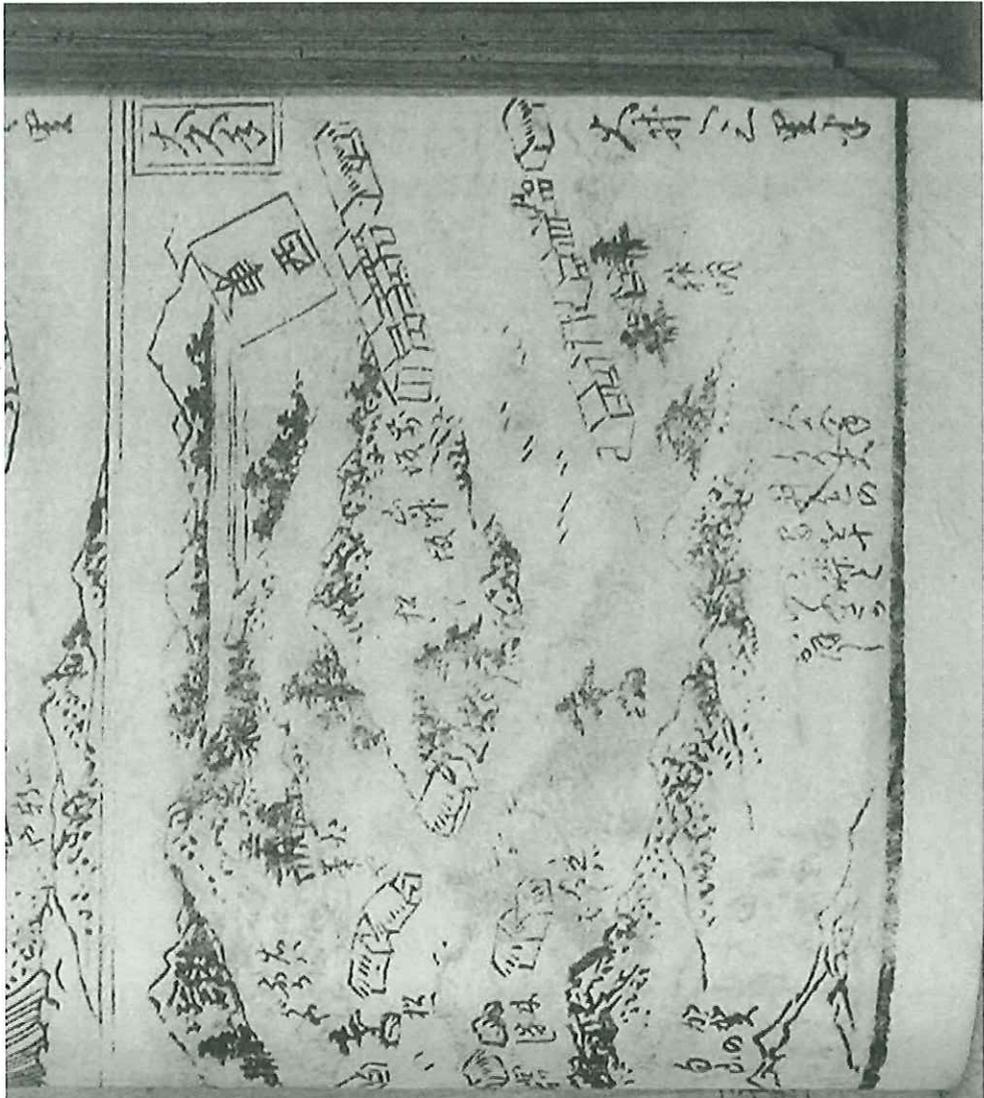
[大井宿～大湫宿]





此山名曰...
 其地多...
 草木...
 宜於...
 種植...

此山名曰...
 其地多...



此山名曰...
 其地多...

此山名曰...

西園

此山名曰...

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数
○大湫宿…（記載なし） ○細久手宿…（記載なし）
地形・景観的な特徴
<p>[細久手宿～御嶽宿]</p> <p>① 左頁の中央付近に一里塚が描かれ、立木は「松」と記される。また、その左側（東方）に平岩村の記載がある。</p> <p>[大湫宿～細久手宿]</p> <p>② 細久手宿の左側（東方）、右頁の中央付近に一里塚が描かれ、立木は「松」と記される。</p> <p>③ 右頁の左端、左頁の右端付近に一ツ立場、やせ沢と記され、弁天池も描かれる。</p> <p>④ 左頁に琵琶坂と琵琶峠、その左側（東方）に一里塚が描かれ、立木は「松」と記される。また、その左側（東方）に一里塚が烏帽子岩・母衣岩が描かれる。</p> <p>[大井宿～大湫宿]</p> <p>⑤ 右頁の大湫宿の下側（北方）に神明社と記され、大杉と思しい樹木が2本描かれる。</p> <p>⑥ 右頁の大湫宿の左側（東方）寺坂、山神坂と記され、その左側（東方）に一里塚が描かれ、立木は「松」と記される。</p> <p>⑦ 大湫（大久手）より大井の間を十三峠という、坂が多い。との記載あり。</p>
その他
① 琵琶峠から見える眺望などを解説。

◎『新撰美濃志』

尾張藩士の岡田文園が天保年間（1830年-1843年）に記した全30巻の歴史地理誌です。

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数
○大湫宿…（記載なし） ○細久手宿…（記載なし）
地形・景観的な特徴
<p>② 十三嶺（十三峠）は大湫宿と大井宿の間にあり、上り下りが多いことから名付けられた。しかし、実際はさほど険しくはない。</p> <p>③ 琵琶坂（琵琶峠）は岩石が多く、坂の下には烏帽子岩・母衣岩という大岩がある。坂の上からは丑寅（北東）に木曾の御嶽が見える。北に加賀の白山が飛騨の山あいから見える。西に伊吹山が見える。</p>
その他
① 琵琶峠は、烏丸光栄卿の「打出浜記」にも出名することを、文書を引用して解説

◎『古今諸留記』

江戸時代末期に大湫宿の間屋を務めた「笹屋」の小木曾文蔵が大湫宿の歴史などを書き留めた書物です。記録は順不同で重複もありますが、最新の記録は嘉永元年（1848）です。

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数
○大湫宿…宿並み2町55間、家数54軒、[元禄6年（1693）時] ○細久手宿…（記載なし）
地形・景観的な特徴
① <u>うしが洞地蔵（尻冷やし地蔵か）は、宝永8年（1711）に小栗金左衛門（笹谷・文蔵の祖先）が立てた。</u>
② <u>琵琶坂（琵琶峠）東側のうち、峠（頂部）から二ツ岩までの6町10間は幕府領の10か村、二ツ岩から大湫宿（西口）までの5町までは大湫宿が工事を担当した。</u>
③ <u>大湫宿（東口）から山の神坂までの3町半は大湫村、やまの神坂からしやれこ休石（しやれこ坂）までの2町20間余りは幕府領10か村が工事を担当した。休石から雨堤までの3町50間は正家村（恵那市）、雨堤から檜木土橋までの11町は大湫村、土橋から三ツ城沢までの50町は釜戸村が工事を担当した。</u>
④ <u>有君（鷹司任子）様の通過の際（天保2年（1831）、ことさら入念に道を整備した。かりまくさ・あし又（足又）辻から檜ノ木坂まで、馬または人が背負って砂などを運び、昼夜を問わず、最終的には女性までが作業に参加した。大井村の人が作業を担当した場所は大井川（恵那市）から砂を運んできた。</u>
その他
（助郷や宿内の神社の由来など、多数の記載があるが省略）

◎『中山道宿村大概帳』

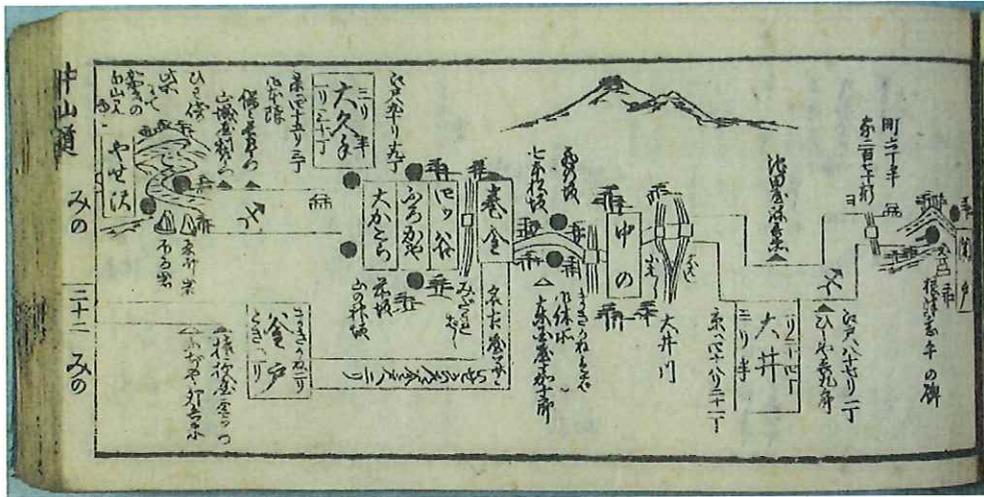
江戸時代、五街道などの宿駅と街道沿いの様子を書き上げた書物です。人口は天保 14 年 (1843) 調べが主ですが、安政年間 (1854 年-1860 年) 頃のものも含まれます。

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

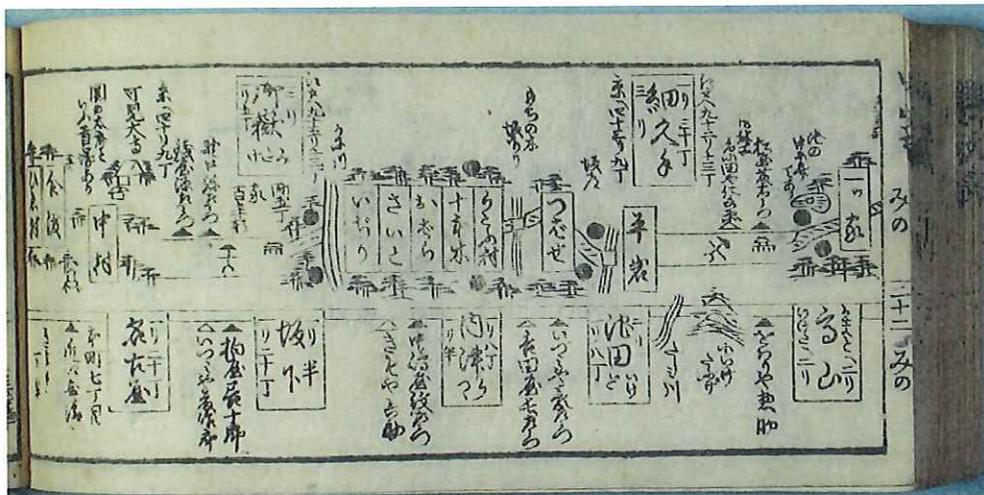
宿場の規模・家数
○大湫宿…宿並み 3 町 6 間、人数 338 人、家数 66 軒、旅籠屋 30 軒 ○細久手宿…宿並み 3 町 45 間、人数 256 人、家数 65 軒、旅籠屋 24 軒
地形・景観的な特徴
① 釜戸村内の道幅は 2 間～3 間で、自普請 (周辺村落が費用を出して工事を行ったもの) である。茶屋ヶ根と新道には土橋、 <u>檜木には石橋</u> があり、3 つとも自普請である。 ② 大井宿から大湫宿の間には一里塚が 3 か所ある。 <u>大湫村内には一里塚が 1 か所あり、立木は松である。</u> ③ 大湫宿内には問屋場と高札場が各 1 か所あり、高札場は西町観音堂の前に建っている。また、道の両側で建物の無い場所は並木となっている。 ④ <u>大湫宿と細久手宿にかけての道路幅は 2 間～3 間で、八瀬沢に土橋がある。これらは自普請である。この間には一里塚が 2 か所あり、1 か所は左 (南) の塚は大湫村内、右 (北) の塚は日吉村内にある。もう 1 か所は日吉村内にあり、いずれも立木は松である。また、立場も一ツ屋に 1 か所ある。烏帽子岩と母衣岩という大岩もある。</u> ⑤ 細久手宿内には高札場が 1 か所、問屋場が 2 か所あり、高札場は宿の東入口に建っている。また、宿内に並木はない。 ⑥ 細久手宿から平岩村までの道幅は 2 間半から 9 尺。さが畑と梅の木に土橋があり、自普請である。また、細久手宿から津橋村までの道の普請は尾張藩が行っている。 ⑦ 細久手宿と御嶽宿の間には一里塚が 3 か所あり、1 か所は日吉村内にある。立木は松である。
その他
① 大湫宿、細久手宿とも、周辺の道路の掃除は普段は住人が行っている。ただし、大規模な通行の際は周辺の村に応援を頼むようにしている。

◎『五街道中細見記』[安政5年(1858)]

旅籠組合のひとつ「東講」が刊行した『東講商人鏡』付録の携帯用道中記とされます。



[大井宿～琵琶峠]



[琵琶峠～御嶽宿]

【大湫宿・細久手宿とその周辺に関する主な記載】

宿場の規模・家数
○大湫宿…(記載なし)
○細久手宿…(記載なし)
地形・景観的な特徴
① 大湫宿東方には一里塚の印である「●」が描かれ、山の神坂などの記載がある。
② 大湫宿西方には琵琶峠(やせ沢)、一里塚が描かれる。琵琶峠の東方には母衣岩と岩烏帽子岩が描かれ、峠からは「加賀の白山が見える」との記載がある。
③ 琵琶峠の西方には一つや(立場)、一里塚、弁天池などが描かれる。
④ 細久手宿西側に平岩(村)の記載があり、その西側に一里塚が描かれる。
その他
(特に記載なし)

